

# ◇ 第96回関西学生対校陸上競技選手権大会 ◇

[ロードの部] 2018年4月18日 長居

[T&Fの部] 2018年5月9,10日 西京極 5月18,19日 鴻ノ池

<男子2部>

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位
大学名	天理大	大教大	大市大	京教大	大経大	神戸大
総合得点	123.5	105	91	59	57	52
トラック	46	51	75	28	50	23
フィールド	67.5	49	16	16	7	26
混成	10	5		15		3

<女子>

順位	1位	2位	3位	..	16位
大学名	立命館大	大阪成蹊大	園田女大		神戸大
総合得点	115.83	91	79.5		12
トラック	78	71	40		1
フィールド	22.83	20	36.5		11
混成	15	0	3		0

<男子>

種目	順	氏名(学年)	R	記録(風)	備考
100m		喜多政天(3)	準	11"06 (+0.3)	
			予	10"91 (+0.7)	
		近藤佑哉(M1)	準	11"11 (-1.2)	
			予	10"89 (+0.3)	
200m		仁尾航太(2)	予	11"20 (-0.7)	
		近藤佑哉(M1)	予	22"32 (-0.8)	
			予	22"45 (-1.2)	
400m		野崎祐一(3)	予	23"02 (-0.8)	
		高柳正徳(4)	予	49"11	
800m	6	南部 慎(4)	決	1'54"85	
			予	1'54"64	
		郷原一眞(3)	予	1'57"55	
1500m	6	郷原一眞(3)	決	4'00"01	自己新
			予	4'00"51	
		藤田竣也(M2)	予	4'01"02	
5000m	8	平井大誠(4)	決	15'05"29	
			決	15'58"27	
		松井悠真(3)	決	33'57"60	
10000m		平井大誠(4)	決	DNS	
			矢田絢介(3)	決	DNS
		根本夏生(4)	決	DNS	
ハーフマラソン	4	平井大誠(4)	決	1°09'51"	
			決	1°16'43"	
		根本夏生(4)	決	DNS	
110mH	6	山口大地(4)	決	14"64 (-0.4)	自己新 歴代3位
			準	14"76 (+0.5)	
		高岡佑大(2)	予	14"83 (+0.3)	
			準	14"72 (+0.4)	
藤原雅志(M2)	予	★14"58 (+1.3)	自己新★学内新		
藤原雅志(M2)	予	15"35 (-0.4)			

種目	順	氏名(学年)	R	記録(風)	備考
400H	6	山口大地(4)	決	53"62	
			予	53"82	
		清水和輝(M2)	予	54"82	
3000mSC	6	藤田竣也(M2)	決	9'30"42	
			予	55"42	
		花崎仁実(3)	予	55"42	
10000W	3	荒堀功三(1)	決	48'48"97	
			決	51'16"42	
4×100mR	8	仁尾(2)喜多(3) 高岡(2)近藤(M1)	予	41"17	
			決	41"38	
4×400mR	8	今城(2)高柳(4) 山口(4)伊藤(4)	予	3'17"32	
			決	3'21"86	
走高跳	2	後藤昂(M1) 小西 満(4)	決	2m05	
			決	1m90	
棒高跳		早川雄己(M2)	決	3m80	自己T
走幅跳	1	高松 稜(2)	決	7m43 (+2.9)	
			決	6m87 (+3.7)	
		神田 実(4)	決	6m50 (+1.2)	
三段跳		神田 実(4)	決	14m72 (-0.8)	
			決	13m60 (+0.7)	
砲丸投	3	上野環太(M2)	決	13m02	自己新 歴代3位
円盤投	4	上野環太(M2)	決	42m00	関カレA 西カレB
			決	36m65	
やり投		梶浦雅之(2)	決	57m97	自己新 関カレA
十種競技	6	金澤佳緯(4)	決	5544点	
			[100m] 11"67 (-0.1)	[110mH] 16"72 (-1.0)	
			[走幅跳] 6m48 (+0.7)	[円盤投] 26m33	
			[砲丸投] 9m12	[棒高跳] 3m40	
			[走高跳] 1m65	[やり投] 42m81	
			[400m] 54"28	[1500m] 4'56"14	

※1 男子2部10000mWはエントリーが7名で大会規定により得点対象になりませんでした。

## 【主将 神田 実】

結果としては目標としていた1部昇格には届きませんでした。得点圏外からの得点も多く、男子総合は6位52点と昨年の結果を順位、得点共に上回ることはできました。しかしながら1部に昇格した大学とは50点以上の差があり、実力が不足していたことは明白です。

目標を掲げた当初、内外から1部昇格という目標が形骸化しているのではないかと、という声もありました。チームとしての未熟さ故に、同じ方向を目指せるようになるまでに多くの時間を要し、部全体として目標に向かえた期間が非常に短かったことも原因の一つとしてあったと思われます。しかし、この1年、幹部で正解のない課題を解決に向けて話し合い、目標設定のような方法としてだけでなく、チームとして強くなるために個々の部員が考えられるための地盤は形成できたように思います。

今年は悔しさの残る結果となりましたが、小さく積み重ねることはできたように思います。後輩達には、魂のこもった目標を掲げて、誇りある神戸大学陸上競技部をつかっていって頂きたいです。年々部員数が減少傾向にあり、更なる課題も多くみつかると思いますが、時間と労力を惜しまず、チームとして成長してほしいと思います。

末筆になりましたが応援に駆けつけて下さった OBOG の皆様方、本当にありがとうございました。結果でお応えすることができず、申し訳ありませんでした。今後とも御指導、御鞭撻、そしてご声援の程どうか宜しくお願い致します。

<女子>

種目	順	氏名(学年)	R	記録 (風)	備考
800m		宮崎安奈(4)	予	2'24"72	
1500m		甲斐麻華(4)	予	4'53"82	
5000m		仲野由佳里(3)	決	16'51"17	自己新 歴代2位
10000m		仲野由佳里(3)	決	35'32"94	西カレA
10000W	8	福田菜月(4)	決	54'06"42	
110H		和三はるか(2)	予	14"75 (+0.4)	大学ベスト
400H		宮崎奏菜(3)	予	71"83	
4×100m		武村(4)和三(2) 岩倉(3)宮崎(3)	予	50"89	

種目	順	氏名(学年)	R	記録 (風)	備考
4×400m		宮崎(3)佐長(3) 荻野(3)野口(4)	予	4'14"25	
走幅跳	7	武村明香(4)	決	5m68 (+1.7)	
三段跳	4	武村明香(4)	決	12m36 (+1.1)	
走高跳	5	日高水樹(4)	決	1m65	
棒高跳		臼井晴香(2)	決	3m00	

【女子主将 武村明香】

女子チームとしては、今年1年間の目標として①全員で関西インカレ出場、②全員が自己ベスト更新、の2つを掲げてやってきました。またそれに向けての短期目標として、1年間を3つに区分し、その都度自己ベスト大学ベスト更新個数の達成目標をたててやってきました。この目標を作ったのは、女子チーム1人ひとり全員が本気で目指せる目標をたて、みんなで高め合うチームを作れたからです。

結果として、関西インカレには選手17人中13人が出場し、総合12点で16位、自己ベスト更新は8人のべ24種目となりました。全員で、という目標はどちらも達成することはできませんでしたが、それに向けて1人ひとりが自覚を持って取り組む意識づくり、またチームで高め合うという目的は達成できたのではないかと思います。しかしながら、今年に関西インカレを見ても分かる通り、関西の女子のレベルは非常に高く、そこで戦うにはまだまだ足りないところの多いチームでもあります。今後は次期女子主将の宮崎を筆頭に、今回感じたことを糧にさらに全員が成長してってくれることと思います。

最後になりましたが、1年間ご支援頂き、また関西インカレの5日間暑期中応援に駆けつけて下さりました、OB.OGの方々、誠にありがとうございました。今後とも部員一同より一層頑張っていきますので、ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

入賞者コメント

【800m 6位 南部 慎(4)】

800mに出場させていただきました、4回の南部です。関西インカレでは、一昨年、昨年と不甲斐ない走りをしてしまっており、しかも関西インカレ3日目までは、事前のランキングでベスト8の記録を持つ神大の男子が入賞できていなかったのも、厳しい組でしたが何とかして予選を通過して個人としてもチームとしても流れを変えようと思って走りました。予選は、普段とは違い前に出て引っ張るというレースでしたが、何とか決勝に進出することができました。見ていた方をとてもヒヤヒヤさせてしまって申し訳ありませんが、暴風の中、自分がやれることはやったかなと思います。決勝では3位を狙って走りましたが、自分のリズムを崩してしまい、うまく走ることが出来ませんでした。ただ、組分けも決勝進出条件も風も全てが自分にとっては絶妙に厳しい中でも入賞出来たことは自信になりました。結局、一度も目に見える形で後輩たちに何も残すことは出来ませんでしたが、三重からやって来て右も左も分からない中、OB.OGのみなさんご指導のお陰でここまでやって来ることが出来ました。本当にありがとうございました。



【5000m 8位 ハーフマラソン4位 平井大誠(4)】

ハーフ、5000mとも入賞することができました。事前のもちタイムでは10位、21位と得点圏外でしたが3回目の関西インカレ出場ということで4回生らしい走りができたと思います。応援して下さったOB.OGの皆様ありがとうございました。



【1500m 6位 郷原一真(3)】

1500mは実力を発揮して6位に入賞でき、嬉しく思います。800m自分の理想とは程遠い走りとなってしまい不甲斐ないですが、積極的なレースはできましたと思います。たくさんのご声援ありがとうございました。

**【110mH 6位 400mH 6位 4×400mR 8位 山口大地(4)】**

110mH、400mH、4×400mRに出場させていただきました。専門にしている110mHは、毎年準決勝でタイムを落として悔しい思いをしてきましたが、今年は準決勝で自己ベスト出せて、目標にしていた決勝に残れてよかったです。400mHは自己ベスト付近出せば3位争いできただけに決勝でのタイムが悪く、悔しい結果に終わってしまいました。4×400mRはラップ48秒台出せて決勝残れてよかったです。一人だけT&Fの部全日競技に出させてもらってとても楽しめましたし、全部入賞できて4回生の意地見せたかなと思います。応援してくださった皆様本当にありがとうございました。



**【3000mSC 6位 藤田峻也(M2)】**

応援ありがとうございました。今年は状態が上がらず、上位に入ることができませんでした。悔しい結果ではありますが、日本ICなど重要な大会があるので、それに向けて今後も頑張りたいと思います。



**【10000mW 3位 荒堀功三(1)】**

沢山の応援ありがとうございました。大学デビュー戦で表彰台に立つことができたのはこれからの自信になりました。それと同時に多くの改善点が明確になったので今後に活かしていきます。

**【10000mW 5位 若江亮平(2)】**

目標であった自己ベストも表彰台も達成することができませんでしたが、いくつか学べたこともありました。今回の経験をこれから活かしていきたいと思います。



**【4×100mR 8位】**

**【1走 仁尾航太(2)】**

個人種目では結果を残せず、リレーでは他のメンバーに頼ってばかりだったので、来年は個人で活躍できるように頑張ります。応援ありがとうございました。

**【2走 喜多政天(3)】**

得点をほとんど取ることができなくてごめんなさい。でも僕はこんなところで終わる人じゃないので、結果でもって今すぐに挽回します。

**【3走 高岡祐大(2)】**

3種目出させて頂きましたが、どの種目も納得のいく結果を出すことができませんでした。来年は今年よりさらに活躍し、チームに貢献出来るように頑張ります。応援ありがとうございました。

**【4走 近藤佑哉(M1)】**

個人種目では目標にしていた決勝進出を果たせず、非常に悔しいです。リレーではチームベスト更新と決勝進出を果たしましたが、決勝では納得のいくレースができませんでした。来年最後の関西インカレとなるので100m、200mで決勝進出、リレーでは表彰台に登り有終の美を飾りたいと思います。応援よろしくをお願いします。



**【4×400mR 8位】**

**【1走 今城有貴(2)】**

予選では自分の走りができましたが、決勝ではできなかったの、来年リベンジします！

**【2走 高柳正徳(4)】**

400mは思うように走れず、後悔の残るレースとなりました。4×400mは予選こそ突破したもののまだまだ力が及びませんでした。暑い中応援ありがとうございました。

**【4走 伊藤智也(4)】**

400mはレースペースを間違え、無様な姿を見せてしまい申し訳ありません。4×400mRは4走として、役目は果たしたつもりです。ただ決勝で神院大をぬかせなかったのは悔しいです。



**【走高跳 2位 後藤 昂 (M1)】**

全力B標の2m13を跳ぶことと優勝を目指していただけに2m05で2位というのは非常に悔しい結果でした。今回の反省を活かすまずは西カレで雪辱を晴らせるように頑張ります。応援ありがとうございました。



**【10種競技 6位 金澤佳緯(4)】**

2日間で11種目のかなりハードな日程と練習不足のためかなり苦しい試合になりましたが、他競技者の棄権等でなんとか点数を取って部に貢献できたことを嬉しく思います。



**【走幅跳 優勝 高松 稜 (2)】**

優勝し、チームに貢献出来てよかった。これからの対校戦でも積極的に順位を狙っていきたい。



**【10000mW 8位 福田菜月(4)】**

暑い中、長いレースを応援してくださり、ありがとうございました。結果としましては、自己ベストからは程遠い結果になりましたが、8位入賞という最低限の目標は達成できました。苦手意識が強い暑い中でのレースでしたが、本当に皆様の声援が力になりました。日本インカレ出場に向けて、諦めずに西日本インカレ等頑張りますので、引き続き応援のほど宜しくお願いします。本当にありがとうございました。

**【砲丸投 3位 円盤投 4位 上野環太(M2)】**

砲丸投と円盤投に出場させていただきました。砲丸投はやっと13m投げることができ、運良く表彰台にも乗ることができたので良かったです。円盤投は全力標準を切りたかったですが、実力不足で遠く及びませんでした。まだ競技を続けるので、今後も全力標準切りを目標に練習を重ねていこうと思います。大学6年間、関カレを1部で戦うことはできませんでしたが、後輩たちに想いを託して、いつか神戸大学が1部昇格することを願っています。応援ありがとうございました。



#### 【走高跳 5位 日高水樹(4)】

5位に入賞させていただきました。最後の関西インカレでは、表彰台に乗ると決めていたので悔いが残る結果となりました。ご声援ありがとうございました。



#### 【走幅跳 7位 三段跳4位 武村明香(4)】

走幅跳7位、三段跳4位でした。望んでいた結果ではありませんでしたが、今シーズンなかなか上手いかず不安も大きかった中、2種目入賞できたのはみなさんの応援のおかげです。本当にありがとうございました！これからは、9月の全日本インカレで良い結果を残せるよう精進していきます。今後よろしくお願い致します。



### 出場者コメント

#### 【藤原雅史(M2)】

正選手として出させていただいたにも関わらず1人だけ予選落ちという結果に終わり申し訳ございませんでした。種目としては山口の決勝進出や高岡の学内新があり先輩として誇りに感じています。最後となりましたが応援してくださりありがとうございました。

#### 【早川雄己(M2)】

怪我の影響でシーズン初戦となり不安もありましたが、楽しんで試合をすることができました。応援ありがとうございました。

#### 【清水和輝(M2)】

不甲斐ない結果ではありましたが、皆様の応援が力になりました。ありがとうございました。

#### 【野口ひかり(4)】

目標タイムの4'10"00切りは達成できませんでしたが、最後の最後にチームベストを更新できたことは素直に嬉しいです。この4人でバトンを繋げたのは、たくさんの人の支えがあったからだと思います。ありがとうございました。数字として何もチームに貢献できなかったことが少し悔やまれますが、最後に悔いのない走りのできたので後悔はありません。たくさんの応援ありがとうございました。

#### 【宮崎安奈(4)】

初めてまともに練習ができて個人種目で挑めた関西インカレでした。それでも思うような走りはできなくて出したい時に結果を出す難しさを感じました。たくさんの応援ありがとうございました。

#### 【甲斐麻華(4)】

初めてまともに練習ができて個人種目で挑めた関西インカレでした。それでも思うような走りはできなくて出したい時に結果を出す難しさを感じました。たくさんの応援ありがとうございました。

#### 【神田 実(4)】

最後の関西インカレは三段跳、走幅跳ともに不甲斐ない結果に終わってしまいました。結果という形のあるもので示すことができませんでしたが、ご声援くださったOB、OGの方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。

#### 【佐久間 啓(4)】

故障等により十分な練習を積めないまま臨むこととなりました。良い意味でも悪い意味でも最低限の走りだったと思います。今後は駅伝に向けて取り組んでいきます。応援、サポート等ありがとうございました。

#### 【野崎祐一(3)】

実力不足過ぎました。鍛え直します。

#### 【松井悠真(3)】

応援ありがとうございました。来年頑張ります。

#### 【佐長亜彩(3)】

4×400mRの2走を走らせていただきました。いい流れで次に繋ぐことができず、自分の実力不足を改めて感じた試合でした。目標としていた4分10秒切りには届きませんでしたが昨年の関西インカレの記録やチームベストを更新できたので今後の糧にしていきたいです。また、来年は個人種目にも出場できるように練習を積みます。応援ありがとうございました。

#### 【岩倉美晴(3)】

4継の3走を走らせていただきました。目標としていたタイムに届かず悔しい気持ちでいっぱいです。この悔しさをバネにこれからの練習も頑張ります。応援ありがとうございました。

#### 【今城 有貴(2)】

予選では自分の走りができましたが、決勝ではできなかったの、来年リベンジします！

#### 【臼井晴香(2)】

棒高跳びに出場させていただきました。満足できる結果が出せず、自分の力不足を実感しました。来年関西インカレで入賞することを目標として、これから練習を積んでいきます。応援ありがとうございました。

#### 【梶浦雅之(2)】

現時点での力は出し切れたと思いますが、記録が及ばず悔しいです。

#### 【和三はるか(2)】

調子が良かっただけにとっても不甲斐ない結果となってしまいましたが、来年再来年があるのを救いに、また1から練習頑張りたいと思います。応援ありがとうございました。

### ご声援ありがとうございました!! (敬称略)

新17椎木茂久 新18平田明男 新21絹田清昭 新21筒井博司  
新27矢野 猛 新57篠原康男 新64西田文香 新64山下雄大  
新65大和祐己 新66坂元亮介 新66澤田将希 新66谷本睦弥  
新66明瀬優香 新66八重樫将之 新66八木健人 新67奥田真伍  
新67桂 翔太 新67金丸和嗣 新67木原日向 新67佐々木真子  
新67末廣真子 新67竹島周平 新67西村拓海 新67山下駿平

## 2019年 第96回関西インカレ観戦記

新21 絹田清昭

今年も関西インカレの季節が到来した。とくに今年はオリンピック前年ということもあり、陸上界全体に100m、400mリレー、マラソンを中心に活気がみなぎっているような感じがある。関西からも多数オリンピック選手が出てほしいものだ。関西学生も多田修平君、女子では近年精彩を欠いていたが、先日の木南記念陸上400mで久しぶりの53秒台で快勝した青山聖佳さんという関西学生の花が卒業した。また京大の山西君が競歩界にあって輝きを放っているのも頼もしい。今年はどうなスター選手が新たに登場するのかも大会の興味の一つであろう。

わが神戸大学は、というと、男子は一昨年、昨年の低迷からようやく脱する兆しを見せ始め、特にリレーを中心に短距離が陣容を整え形になってきたのは心強い。また跳躍、投擲でも有望な新人が入ったと聞く。まだまだ総合力としては一部を狙うにはシンドイが、個々の種目でキラリと光る選手も多い。ひとつひとつじっくりと観戦しOB諸兄に少しでも臨場感のある報告としたいものだ。従来ともすればトラックレースに偏っていたことを反省し、フィールドにも積極的に足を運んでみた。じっくり見てみると跳躍・投擲も結構面白いものだ。陸上競技の多様性に改めて気づいた。内容は予選から結構くどくど書いている。皆が決勝まで進めるわけでもないし、予選には予選のドラマがあるからだが、そういうところも大切に拾っていききたい。なお、「関西インカレ」でネット検索してもらえば、「関西インカレ2019・速報・結果(リザルト)」で全種目の結果がわかる。特にトラックレースは2部でも動画がついている場合もあるのでご興味があれば是非ご覧いただきたい。また現役からの「関西インカレ速報」も発信されている。合わせてご覧いただければと思う。

### 1日目：4月18日(木)長居競技場

#### ハーフマラソン 平井大健闘の4位

例年通りハーフマラソンで関西インカレの幕開けだ。神戸大からは忍者走りの平井大誠(4年)と松井悠真(2年)の二人が出場。この日は4月にも関わらず9時半のスタート時点で気温が20度を超え、サブイバルレースが予想された。案の定、レースは耐久レース

の様相を呈したが、その中で平井は2部の第2集団につけ、この集団を引っ張るとともに前から落ちてくる各校の強豪を一人、また一人と拾って順位を上げていった。歩道から見ていると、最後までフォームが崩れず余裕を感じさせたのが平井だった。昨年も頑張った8位入賞だったが、立派に長距離エースの役目を果たし、見事4位に食い込んだ。事前のタイム予想からの順位は8位だったが、平井の距離適性と当日の気温を考えた冷静な状況判断が生きた会心のレースだった。タイムも1時間9分52秒と1時間10分を切ったし、なによりトップが1時間8分06秒ということなので、タイム差が2分以内。これは値打ちがある。残念ながら松井は途中から体が揺れ出し大きく遅れてしまった。トラックレースでのリベンジを期待したい。先ずはいい滑り出しである。1部では優勝こそ関学(1時間6分台)だったが、2位は何と大阪大、以下びわスポ大、同大、関大、龍谷、近大、同大と続いたが上位常連の京産、立命からは入賞者がゼロという結果。これはどう解釈すべきか? 大阪大の西君(M2)が大健闘で2位に入り周囲を驚かせていた。

### (トラック&フィールド1日目)

#### 5月9日(木)西京極競技場

今年はいろいろな都合が重なり関西インカレのトラック&フィールド開催が西京極と奈良の鴻ノ池に分散、しかも2週間にわたって行われた。選手たちも大変だが応援する方も結構疲れる。今年には特にセイコーグランプリが長居での開催となった余波が大きいようだ。要は試合が多すぎるということか。

#### 十種100mで競技開始

金澤佳偉(4年、5616点、7位)が出場。出場者は10名であるが、トップが6459点(大教大)で10位が5054点。金澤はランク7位と入賞圏内。この種目はここ数年、吉田、宮崎という2枚看板が6000点を超えての上位入賞を果たし大量得点を稼いできたが、その二人も卒業し金澤に期待が集まる。果たして?勝負は時の運とは言うがエントリートップの大教大他4人が棄権および途中リタイヤで、最後まで完走?したのが6名。金澤は5549点と自己記録を100点以上下回

ったが6位入賞を果たした。内訳は(100m11秒67、幅6m48、砲丸9m12、高1m65、400m54秒28、110mH16秒72、円盤26m33、棒高3m40、槍42m81、1500m4分56秒14)であるが、下線を引いた5種目が500点未満。

あと1年あれば6000点越えも夢ではないが……。でも2日間よく頑張った。拍手を送りたい。

### **女子棒高跳決勝 白井(2年) 入賞ならず**

16名がエントリーする中、白井晴香(2年、3m00)が出場。白井は和歌山桐蔭高時代、3m50を跳んで国体に出場している逸材。しかしまだ高校時の調子に戻っていないようで助走にスピードが乗らずポールがしならない。かろうじて3mを3回目でクリアするも3m20で力尽きた。3m40が入賞ライン。50を跳べば表彰台が見えてくる。今後試合勘が急速に戻ってくるはずで、次の機会で本来の跳躍が見られるかもしれない。期待しよう。

### **女子1500m予選 3組4着+3**

#### **甲斐(4年) 惜しくも自己新ならず予選落ち**

甲斐麻華(4年、4分52秒85)が予選2組に出場。自己記録は4分52秒、予選通過ラインは4分30秒台なので予選通過は絶望的。しかし9月の駅伝を見据え、主要メンバーの一人、甲斐がどのくらい走れるかに焦点を当てて見ていた。レースは開始後後方ではあるがそれほど遅れた感じではなく集団の中にいる。レースに参加しているということだ。2週目もそれほど大きな後退ではなかったが、さすがに3週目に離され4分53秒82で自己記録更新は惜しくもならなかった。この組は3組の中で一番遅かったがそれでも予選通過の4位が4分37秒。この差は大きい。ひとつ感じたが、やはり4分40秒を切ってくるランナーは最後の300mにスパート感がある。甲斐もスパートが効けば4分50秒近くでは走っていた。女子中長距離陣がどんな練習をしているのか知らないが、苦しい中最後の300mをあげていかないとタイムは出ない。平井君もスパートに自信がなかったが、この1年150mの「流し」を重視して疾走スピードを上げる努力をしたそうで、それが最後のスパート力向上の結果として出て最後の1周が格段に速くなった。疾走スピードの強化はどの種目にも共通する課題だ。

しかし長距離は距離練習に偏りがち、是非女子も「流し強化」を取り入れていただきたいものだ。

### **2部400m予選 予選4組1位+4**

#### **高柳 惜しくも予選落ち**

高柳正徳(4年、48秒87、ランク8位)と伊藤智也(4年、50秒09)が出場。1組の高柳は8レーンだが7レーンにランクトップ(47秒42)の京教大がいる。このレーン順が気になった。スタートし、アウトコースの鉄則通り前半から結構行っているが、インの京教大がバックで前へ行く。やはり強い。

それを追走しているがどうもフォームが固い感じでスピードに乗っていかない。最後の100mも伸びず後続にもかわされ組4位、タイムも49秒11と自己記録に届かずよもやの予選落ち。400mは準決がなく各組1位プラス4という厳しいもの。このインカレでは48秒の前半、あわよくば48秒切りも狙っていただけに残念。伊藤も自己記録より1秒悪い51秒07と組7位。

さてマイルはどうなるのか? 高柳は悪びれず「マイルで敵討ちします」と気丈に語っていた。期待しよう。

### **2部100m予選 6組3着+6 近藤、喜多 予選通過**

近藤祐哉(M1、10秒70)と喜多政天(3年、10秒65、8位)が出場。喜多はランク8位だが、近藤は10位以下。しかしこの辺り接戦で0秒2くらいの差は当日の体調で直ぐ変わるのが怖いところ。

1組の近藤はスタートから堅実に走った印象。組3位だが10秒89(+1.3m)と予選を無事通過。5組の喜多は昨年夏は絶不調だったが秋は絶好調と調子の波が大きい。4月21日のリレーカーニバルの400mリレー決勝の2走では絶不調。調子が上向いていればいいのだがと思っていた。スタートはスムーズだったが60m辺りからの伸びを欠き、組2位の10秒91(+0.7m)で通過はいいが、決して切れているわけではなさそう。準決以降どう調子を上げてくるか? だ。

### **女子100mH予選 5組2着+6**

#### **期待の和三 予選落ち**

期待の和三(2年、14秒78)がエントリー。この種目は一昨年まで宮崎、森下の二人が14秒台前半で支えてきた。予選を通過するには14秒50が必要。和三の高校時代の記録は13秒台なので問題はないはずだが? 和三は身長も高く手足も長い。100mのスピードもある(12秒台)ので期待していたが、後半伸びず14秒75で5位に終わった。棒高の白井もそうだが、高校時代の調子にはまだまだだが、一冬を越えこれから本格的に復調を始めそうな気がしている。近国体を期待しよう。

## 2部三段跳決勝 神田 惜しくもTOP8に進めず

神田実（4年、主将、14m95、9位）と十種の金澤佳緯（4年、14m24）が出場。

特に神田は集大成として15mの大台を超え入賞してほしいものだ。この日は風もそれほどきつく吹いておらずコンディションは悪くない。助走練習を見ていたが神田は2本ともかなり走れており踏切も合っているように見えた。好調と見たのだが……。1本目無難に14m72。全体でも真ん中くらい。先ずは無難な滑り出し。2本目、踏切はドンピシャで合い、ホップも伸びステップも踏ん張れたと見えたがジャンプに移る際にピリッときたとかでジャンプができなかった。3本目も上手く跳躍できず1本目の14m72が予選記録となってしまった。その後他の選手に逆転され、何と9位で残り3本の8人に残れなかった。惜しいのは2本目。あそこで踏ん張っていたら15mの大台に手が届いたのではないか、というくらいの展開だった。ジャンパーが違和感を感じたら本能的にジャンプを中断してしまうものなのだろうが。それにしても残念な跳躍だった。金澤は十種の合間に駆けつけて、それでも2本跳んだが、助走練習もろくにできておらず自己記録には遠く及ばなかった。やはり掛け持ちというのは無理があり双方に悪影響がありそうな気がする。対校戦なので点を取れる可能性があるなら別だが、入賞の見込みもないのならエントリーする意味がないように思うのだが？

## 2部110mH予選 5組2着+6

### 山口、高岡は無難に通過。高岡は学内新樹立！

山口大地（4年、15秒10、自己記録は14秒93）、高岡祐大（2年、14秒83）、藤原雅志（M2、14秒92）が出場。ランク10位が14秒70なので決勝進出は3人ともシンドイかな、と見ていた。ところが、まず1組の山口が2位14秒83で予選通過（自己新）。幸先いいと思っていたら、2組の高岡がなんと14秒58の学内新。スタートがドンピシャ決まり第1ハードルで他より1mほど先行したように見えた。あとはリズムに乗り学内新！（当然自己新）とは恐れ入りました。藤原は練習もそれほど積めなかったようで自己記録に遠く及ばなかったが、院にいったからもいい意味でしつこく陸上を続けた熱意に拍手を送りたい。準決で特に高岡がどんな走りをするのか楽しみになってきた。

## 女子400mリレー予選 3組2着+2

### 最下位なるも何とか50秒台で走り切る

武村（4）、和三（2）、岩倉（3）、宮崎（3）が出場。去年までは走高跳の日高までも加わっていたが、昨年、100mHの和三、棒高跳の白井と、走力のある選手がそろってきたので日高はお役御免に。さてどんな走りをするか？ 神大記録は宮崎、西田、松成、石谷と全員12秒台というチームでたたき出した47秒43だが、せめて50秒台ではと思っていた。1走の武村は頑張っただけで他校と遜色なく2走につないだが、12秒前半のランナーが並ぶ2走では和三もシンドイ。以下ずると後退し最下位でゴール。タイムは50秒89。50秒は切れなかったが最低ラインの50秒台は記録できた。リレーに出場するかしないかは部の士気に大きな差がある。部のベクトルを合わせるにはリレーは格好の目標だし、部のレベルを測るバロメーターにもなる。今後武村は抜けるがその穴は白井が埋めることになるのだろうか？ リレーの火を消さないようにしてほしいものだ。個々の走力を挙げ49秒台に突入してほしい。

## 2部400mリレー予選 3組2着+2

### 大健闘！ 41秒17の好タイムで予選通過！

仁尾、喜多、高岡、近藤のメンバーで実質3人が10秒台。ようやく格好がついてきた。このメンバーでリレーカーニバルで走っており、予選は41秒53で安心したが決勝は42秒05もかかり県立大にも負けて最下位。2走の喜多が全く動いていなかった。予選通過は最低41秒台前半。喜多がどれほど動けるかだと見ていた。100mのレースを見る限り、まだ本調子ではないが戻ってきているとは感じた。仁尾はスムーズに出て上出来で喜多に。喜多は伸びを多少は欠くものの何とか現状維持で高岡へ。高岡はここでは強い。他校を追い込んで3位で近藤へ。近藤は追手門学院大の追撃をかわして3位死守。41秒17のタイムは「このところ新」。4位の追手門学院大（落選）とはわずかに100分の2秒差。1位通過は天理の40秒44。次いで大阪教育大、甲南大、市大。ともあれ予選通過でほっとした。

## 2部10000m決勝 松井15位

松井（3年、31分44秒60）だけが出場。エース平井が農学部の授業で欠場。彼は植物の生育条件などの研究をしており、ある意味ずっと生育中の植物についてやらねばならず、授業の縛りもきついらしいが調子が



いいだけに非常に残念。次週の5000mに期待しよう。この他にも矢田(3年)が故障で出場できなかったのは残念。松井はハーフで最後フラフラになっていたのどこまで回復しているかだが、31分台のタイムは立派だし調子は決して悪くない、と聞いていた。

スタート。夕方のレースだがまだ気温は20度を超えておりゆっくりの滑り出し。1万mは男女ともトラックにかかわらずバックに給水テーブルがある。2000mまでは松井も集団の後方に位置するも、3000mあたりから3人ほど遅れだした。一人は松井。レースは大阪経済大の富田君が最後大きく2位を離し31分02秒でゴール。前半のスローペースからすると好記録だ。

大阪経済大は報徳学園の名伯楽の鶴谷監督が昨年亡くなられ、その後任として北京五輪代表の竹沢健介さんが監督に就任したとのこと。今後が注目だ。

松井は後半粘って3人をかわし18人中15位でゴール。記録は33分57秒60と自己記録より2分以上遅い。本人は相当不本意だと思うが、とにかくただ一人の神大代表として走ったことにご苦労様、と言っておこう。駅伝でリベンジしてほしいものだ。なおこのレースは本当のサバイバルレースだったらしく、ハーフで6位に入り、当然入賞を期待されていた甲南大の藤本君が34分もかかり最下位でゴールし倒れこんで、その後担架で搬送されるという事態となった。

## (トラック&フィールド2日目)

5月10日(金)西京極競技場

### 女子三段跳び決勝 武村惜しくも4位

女子主将の武村明香(4年、12m67、2位)が出場。13mを跳んで全カレに挑みたいというのが武村の悲願。この日はホームストレートが相当の向い風、ということは三段跳のピットはかなりの追風であるが、追風だから記録が伸びるという単純な競技ではない。平均3m前後の追風というのは結構やっかいなようで踏切が合わない選手が続出。踏み越す選手はむしろ少なく、はるか手前で踏み切ってしまう選手が多かった。武村は助走は結構走れていたと思うが跳躍が低い。同じようなジャンプを6回繰り返してしまった印象で、12m36(+1.1m)で4位というのは。本人としてははなはだ不本意な結果であったろう。競技環境としては

追い風参考でも13mを跳ぶチャンスだただけに残念。武村の場合は今日の結果云々より、今年に入ってから三段跳のイメージが湧かない、と言っていたことの方が問題。体が空中へ舞い上がるというイメージが、試合前に湧いてこないということだろう。単純に、猛練習すれば感覚が戻ってくると、というものではない。しかし百戦錬磨の武村のこと、立て直して6月の個人選手権辺りで13mに挑んでほしいものだ。

### 2部砲丸投げ決勝 上野(M2)大幅自己新で3位入賞

上野環太(M2、11m47)が出場。今回、努めてフィールドに足を運んだと言ったが、この砲丸は武村の三段跳と重なっていたため見損ねてしまった。上野君に謝らねばならない。その競技でなんと上野が13m06を投げ見事3位、表彰台に上がった。13mの大投擲も表彰台も見逃してしまった。はなはだ残念。上野はもともと投擲の選手だったが、100mも11秒の前半で走り、確か3年時には400mリレーのメンバーになったことがあるくらいだ。このため、3年時に十種競技に挑戦したが、やはり棒高、ハードル等がこなせず4年時に投擲に戻った。それからの、特に円盤投での快進撃は記憶に新しい。円盤で40mの大台に乗せたかと思うとそれを44m超まで伸ばした。この2年間の活躍は、何か吹っ切れて迷いがなくなったところが大きいのではないかと想像する。彼ももうM2。本当に陸上が好きなんだろう、学内に投擲サークルもない環境で、どうやって砲丸投げで1m50cm以上も自己記録を更新できるのだろうか?天晴の一言。来週の円盤投が楽しみだ。

### 2部110mH準決勝 2組4着

#### 山口が決勝進出。高岡は惜しくも決勝進出ならず

山口(4年)高岡(2年)が出場。山口は14秒76(自己新)4位でしぶとく決勝進出を果たした。連続自己新は立派だ。高岡は14秒71と好記録ながら組が悪く惜しくも5位で決勝進出はならなかった。予選でドンピシャで出たスタートが少し遅れた。後半挽回したが組のレベルが高く決勝進出を阻まれた。しかしその潜在能力は本当に楽しみ。好調山口の決勝での走りに期待しよう。準決通過記録は8位だが、どんどん調子が上げている印象なのでもう少し順位を上げるかも知れない。

### 2部100m準決勝 3組2着+2

#### 近藤、喜多、ともに決勝へ進めず

喜多(3年)が11秒06(+0.3、6位)、近藤11秒11

(-1.2、5位)でともに予選落ち。ともにタイムが悪い。近藤は向い風だったが、喜多はむしろ追い風で11秒台。10秒96が+2だったので残念。どうしたのだろうか？ 400mリレーが心配になってきた。

## 2部 1500m予選 3組 4着+3 郷原、好レースで決勝へ 藤田、まさかの予選落ち

藤田 (M2、3分59秒60、ランク8位)。毎年入賞している藤田と、800mで全国IH出場を果たしている郷原 (3年、4分00秒02、ランク外) の出場。練習をあまり積めていない藤田は不安だが、このところ記録を伸ばしている郷原には期待がかかる。藤田は慎重に中段でレースを進め最終周に上位へ上がっていくのがパターンだが最後の200mになっても切れがない。惜しくも5位でプラスでも拾われず予選で散ってしまった。期待の3000mSCが不安になってきた。やはり大学院で中長距離の量をこなすのはシンドイ。丸岡でもそうだった。3000mSCはさらに距離が長い。不安が募る。

郷原 (3年、4分00秒02、ランク外) はどういうわけか1周目最後尾。思わず「おいおい」という感じだったが、2週目からするすると上がり、結構余裕 (に見えた) の組4位で予選通過。4分00秒01は100分の1秒自己新。余裕をもってこの記録。実質3分台で走っている。800mでIHに出場しただけのことはありレース感はないもののようだ。藤田は残念だったが後継者が育ってきた印象だ。

## 2部 110mH決勝 山口までも自己新で6位入賞

山口 (4年) が14秒64 (-0.3、自己新) で見事6位入賞。山口は準決で自己新を出したが更に記録を縮めた。自己記録から0秒29、エントリー記録からは0秒46も更新し走る度に自己新。こんな選手は滅多にいない。山口も4年、とりあえずいい締めくくりとなった。こういう終わり方を誰しもしたいわけだが、ほとんどの選手ができないのが現実。天晴れ！

## 2部 1500m決勝 郷原 積極的なレースで6位入賞

予選から3時間後の決勝。予選をкаろうじて通ったものには結構きつい。大阪教育大院生の森谷が記録3分50秒で飛びぬけているが、郷原の予選の走りを見て十分3分56、7秒の力はあると感じたので十分入賞のチャンスはあると見ていた。郷原は予選ほど後方ではないがやはり後ろから出ていく。最初は一団だったが300mから森谷が早くも先頭に立ち集団を離しにか

かる。600m辺りで差は40mに。ここから郷原が集団を引っ張るような形で追走にかかる。そのままの形で後1周。少し縮まったが先頭とはまだ30m以上。各ランナーも追撃にかかる。追撃部隊は200mではまだ数人が団子状態。郷原は3、4位か。必死で粘るも直線に入ってさらに2人にかわされ惜しくも6位とはなかったが、ある意味会心のレースではなかったか？ タイムも4分0秒51とほぼ自己記録。3位とは0秒54の差。レースを自分で動かしていった度胸は大したものだ。もし2番手で追走せずに4、5番手で追走していたらもう少し末脚を残せたかも知れないが、周囲を感動させるレースをしたのは間違いない。また予選・決勝と4分0秒台で走れたのは大きい。回復力にも優れているし800mをしていたのでスピードもある。今期中に3分50秒台中盤まで行けそうな勢いだ。彼は学連委員を務めているので練習時間をひねり出すのも苦労するはず。今後も頑張ってもらいたい。三商大戦の大きな戦力だ。

## 2部 4×100mリレー決勝 41秒38で8位に終わる

仁尾 (2年)、喜多 (3年)、高岡 (2年)、近藤 (M1) の4人が出場。仁尾は個人レースに出ていない月の11秒1台と聞く。リレーカーニバルの1走ではいい走りをしていて。高岡も同様、リレーカーニバルの3走は速かった。カギは2走の喜多がどれだけ各校のエースと渡り合えるか、だ。予選では天理を筆頭に40秒台が4校。神大は8番手だが、6、7位の和歌山大、摂南大と競る展開となるはず。

2レーンなのでカーブがキツイ。ピストルが鳴ってスタート。仁尾は3レーンの摂南大を追い上げる展開で喜多へ。摂南大の2走は速い。差を広げられて高岡へ。高岡も詰め切れず8位で近藤へ。前と2m。しかし差は詰まらず8位でゴール。タイムは41秒38と予選より0秒2記録を落とした。バトンミスはないように感じたので2走の喜多の調子そのままタイムに出たように感じた。

6位、7位が同タイムの41秒11。5位までが40秒台。優勝は天理の40秒18、2位は惜しくも市大で40秒36。3走まではほぼ互角。3走から4走へのバトンパスで差がついた印象だった。アンカーの走力は互角。天理はさすが元1部校の貫禄だが、それに引けを取らない市大は強い。(動画あり)

## 女子 10000m決勝

### 仲野 好タイムで 10 位と健闘

仲野 (3 年、1 万 m の記録はないが 5000m16 分 56 秒の記録で出場) も 3 年。市立西宮時代に 3000m9 分 40 秒台で走った逸材も 1, 2 年はなかなか記録が出ずやきもきしていたと思う。ようやく昨年秋ごろから切れ味が戻ってきており、5000m が 17 分を切るまでになった。5000m16 分台ということは 3000m は確実に 9 分 40 秒台の力はある。スピードはさほどないが距離適性とペース感覚に優れたものを持っている。レースは強豪校の選手たちが 11 名で飛び出したが、仲野は 12 番手グループの前で追走。こぼれてくる選手を拾っていく作戦。トップ集団は 5000m15 分台の選手も多く、ついていくのはシンドイので致し方なし。結果堅実には走ったが 10 位。入賞まであと一步まで来た。記録はこのコンディションの中、35 分 32 秒 94 となかなか。5000m 平均では 17 分 45 秒くらい。走力が戻ってきた。5000m では自己記録を是非更新してほしい。来年は十分入賞のチャンスがあると感じた。

レースは本命の立命のエース佐藤が序盤から引っ張ったが、1500m を制した京産の長身橋本がびったり追走。残り 1000m から橋本が持ち前のスピードを生かしてスパート、33 分 36 秒と佐藤に 9 秒の差をつける完勝。佐藤は自己記録より 1 分も遅く、暑さを気にした慎重なスローペースが 1 万 m 初心者の橋本を乗せてしまった印象。佐藤には悔いの残るレースのはずで、再び全国レベルの二人が激突する 5000m が楽しみだ。

## 2 部十種結果 金澤粘って 6 位入賞

2 日間の戦いもようやく最後の種目 1500m である。普段なかなか十種の戦いを見られないこともあり関西インカレで十種を観るといつも感動してしまう。こんな大層で大変な競技はない。エントリーは 10 人だったが、2 人が事前に棄権し、その後 2 人がリタイヤ。最後の 1500m を走ったのは 6 人だけ。金澤は 1500m も 6 位だったが全体でも自己記録にわずか及ばず。5544 点で 6 位。しかし無事これ名馬と言うが最後まで戦って貴重な 3 点をゲット。スタンドと楽しそうにやり取りしながら、陸上競技を楽しんでいるのが伝わってきた。途中で三段跳に浮気しなかったら、もう少し得点が上がったかもしれない。

## (トラック & フィールド 3 日目)

### 5 月 18 日 (土) 鴻ノ池競技場

鴻ノ池競技場は初めてだ。近鉄奈良から北へまっすぐ歩いて 20 分。結構ある。バックスタンドが芝生なので緑が多くそこへ青のレーンが映えてとても綺麗な競技場だ。だが、電光掲示板がなく出場選手とか競技結果の詳細が良くわからないのが難点。しかし西京極と違い、メイン以外のところは第 1 コーナーから第 4 コーナーまでずっと歩いて移動できるので応援はしやすい。今回はフィールド競技を多く観戦したが非常に助かった。

## 2 部走幅跳 高松 見事な大跳躍で優勝

神田 (4 年、6m97)、高松 (2 年、7m12、6 位) 高岡 (2 年、7m09、10 位) が出場。神田は悲願の 7 m 越えを狙う。高松は幅専門で高校時代に 7 m を超えて全国 IH にも出場している逸材。高岡は 110mH が専門だが 100m も 10 秒台。幅は去年の新人戦が初めての公式戦デビューしていきなり 7m09 を跳んだ期待の新人。ビックリポンだ。面白い 2 年コンビが誕生した。この日もホームストレートが強い向かい風、ということはピッチは強い追い風で 3 m 前後吹いている。三段でも述べたが、このコンディションをどう記録に結び付けるか技術の見せ所だ。

試技順は高岡、高松、神田の順。助走路を 2 本使ったの予選だが、どういうわけか 3 人とも B ビット (手前) の助走路を使う。まず高岡、さすがに助走スピードは他と比べても速い。しかし踏切版の 30 cm 以上も手前からの跳躍で記録は 6m80 ほど。実質は 7 m を越えている。2 本目以降が楽しみだ。

高松の跳躍 1 本目、走路が手前なので着地のところが良く見えない。どよめきがあがる。7m17 でいきなり 2 位。神田は先週は体調が良さそうだったが、今日はどうもスピード感に欠けると助走練習を見て感じていた。案の定身体が上がっていかず記録が伸びない。6m50 前後か。以降も 6m50 前後で推移し万事休す。高岡も踏切が全部踏切版のはるか手前で、実質 7m のジャンプを続けてはいるものの 6m89 どまりで 2 本目までで 8 位。高松の 2 本目、どよめきがあがり本人もガッツポーズ。やった! 7m43 の大ジャンプ! 追い風参考だが市大の 7m33 を抜いて一挙にトップ。高岡は

3本目のしかも最後に逆転され9位に転落、TOP8に進めなかった。やはり経験が浅いので、こういう強風が吹くコンディションで助走を調整するだけの蓄積がまだないのであろう。しかし素質の片鱗は十分見せてもらった。高松は難しいコンディションの中、やはりスペシャリストの技を見せた、と言えるのではないか。神田は残念だったが、先週がピークで今週は体が切れていないように感じた。残り試合で何とか調子を合わせて、7m(幅)、15m(三段)を越えてほしいものだ。高松の残り3本。全体的に順位は変わらず見事優勝を遂げた。強風下での助走、というテーマで走り幅を見せてもらった。高松君の技に天晴だ。

## 2部 200m予選 6組 2着+4

### 近藤、喜多、野崎 予選落ち

この種目もレベルが上がり、ランク1位は天理の21秒17、2位は市大小林君の21秒20。10位でも21秒79。決勝へ進むには準決で最低21秒台が必要。神大は1組に近藤(M1、21秒95)、2組に喜多(3年、21秒82)、6組に野崎(3年、22秒70)が出場。近藤、喜多は予選は通ってくれるものと思っていた。しかし近藤が22秒32(-0.8m、4位)、喜多は22秒45(-1.2m、3位)、野崎は23秒02(-0.8m、8位)と揃って予選落ち。向い風が1m前後あったとは言え内容が悪い。先週の100mから1週間開けており疲れは取れているはず。気温も高く、体は動くはずだが・・・残念の一言だ。

## 女子 800m予選 6組 2着+2

### 宮崎、自己記録に届かず予選落ち

宮崎安奈(4年、2分22秒84)が6組に出場。800mは2、3年前は神大女子の十八番だった競技だが、今回は宮崎だけの出場となり寂しい感あり。

去年は関西学生にインターハイ1、2位の川田(東大阪大)、塩見(立命大)の二人が登場。しかも高校時代のタイムが2分2秒台という日本記録(2分0秒台)に迫ろうかという衝撃的な関西学生へのデビューだった。しかし今年はセイコグランプリに、2分0秒台の北村夢さん(エディオオン)と日本記録を狙わせるレースに引っ張られ不出場。結果的に例年のレベルに戻った。関西学生からの五輪選手としては是非出てほしい二人だ。来年の今頃はヨーロッパを転戦しているかも知れない。前置きはそのくらいにして予選に戻ろう。宮崎の記録では予選通過は難しい。2分20秒を切つて

くればチャンスも生まれるが？先ずは自己新狙いだ。1組から順次予選は進む。見てみると速い組では2分18秒くらいでないといと3位にも入れない。一方2分20秒でクリヤの組もある。さて6組だ。ここは自己記録で2分16秒を切っている選手が4人。果たして最初からペースが速い。宮崎は200m時点で既に5mほど集団から遅れているが、1周目の鐘がなるころには何とか7位の選手に追いついた。しかしここで限界だったのか徐々に遅れ始め差が開く。3位までが2分16秒台という最速の組だったが、宮崎は2分24秒で7位と僅差の最下位。やはり800mをやるには絶対的なスピードが足りないように感じる。400mを一つの目安の60秒で走るため疾走スピードを上げる練習を積んでほしい。

## 2部 800m予選 4組 1着+4

### 南部が積極果敢なレースで予選通過

ここ数年、2部800mの王者であり、またマイルのエースであった植田が卒業したが、新しい芽も芽生え始めている。1500mで健闘した郷原(3年、1分57秒85)が1組、エース格の南部(4年、1分53秒78、7位)が2組、延命(3年、1分56秒12)が4組に出場。4組1着+4という厳しい設定だが、本命は1500mの優勝者、大教大M2の森谷で他より頭二つ抜けている。市大は800mも強く矢守君他、3名も10位以内に入っている。

1組、まず大本命の森谷が最初から飛ばし、300mで早くも10m以上の差をつける。郷原はここから上がっていきいい感じで残り1周。差は更に開くもバックでは2位。しかし残り200mで後ろから追い上げられ最後は伸びず5位。記録も1分57秒55と自己新ではあるが予選落ち。しかし郷原はこんなものではないはず。先頭を積極的に追いかける勝負度胸は気に入った。今後の走りを注目したい。

南部は1周目、思わず「おいおい」と声が出るほど先頭で飛ばす。のこり1周で2位以下を10m以上の差をつける大積極的なレース。本人は顔ぶれも見てタイムを引き上げる作戦に出たのだろうが、この展開は最後で足が止まる可能性があり非常に危険。心配して見ていたが、最後2校にかわされたが何とか3位でゴール。1分54秒64。+4に拾われて8番目で決勝へ。危ない危ない！心臓に悪いレースだ。決勝では普通に走ります、と言っていたが・・・。延命は7番目であ

と 400m。結局見せ場を作れずに 6 位、1 分 58 秒 69。1 周目のバックで 3 番手にいた際、後続をすっと前に行かせてしまい 6 番手になったところが気になった。自分でブレーキを踏んだ感じ。あそこは 3 番手をキープして前へ入れてはいけない。突っ張るところは突っ張ってほしい。他はやはり大教大の森谷君は強そうだし、1500m でまさかの予選落ちを喫した市大の矢守君も順当にトップで決勝へ。この 4 組 1 着 + 4 というのは本当にきつそうだ。

## 2 部棒高跳 早川 (M2) 大ケガからの復帰戦で自己タイなるも予選落ち

吉田、宮崎という 4m コンビがいなくなり寂しくなった。早川君はその間第 3 の男だったわけだが黙々と努力し、3 m80 まで記録を伸ばした。大学院でも競技を続けたが、昨年大ケガをし漸く走り始めたのがこの 3 月と聞いた。復帰第一戦がこの関西インカレだ。結果は 3m80 の自己タイなるも予選落ち。本人と話をしたが、彼なりに最後を飾ってさばさばしており、「今シーズン、もう少しやります」と言ってくれた。「静かな闘志」という言葉がぴったりで、こういうアスリートも素敵だな、と思った次第。

## 女子 400mH 予選 5 組 1 着 + 3

### 宮崎予選落ち

次期女子主将の宮崎奏菜 (3 年、69 秒 63) が出場。B 標準 (70 秒 00) をギリギリで突破して本戦へ。結果は 71 秒 83 の最下位 7 位。6 位とは 5 秒の大差。ほろ苦いデビュー戦となったが先ずはここから。女子 400H はハードルが低いので女子でも男子よりハードルの影響が少なく、より 400m の走力がものを言う。やはり 400m を 60 秒くらいで走る走力を身に着けることだろう。そうすればそここのハードリングでも 65 秒前後で走れるので予選であれば集団の中で勝負できる。宮崎も疾走スピードをどうやって上げるかが課題だろう。しかし今回こうやって檜舞台に立ったことが大きい。いい刺激になったはずだ。

## 2 部円盤投決勝

### 上野惜しくも 4 位 高畑は予選落ち

神大記録保持者の上野環太 (M2、44m69、3 位)、次期主将の高畑大地 (3 年、37m23) が出場。

上野は 45m 超であわよくば優勝を狙える位置。昨年からの伸びは素晴らしい。砲丸 3 位の余勢を駆っててっぺんを狙いたいところ。高畑は昨年から故障でほとん

ど投擲練習ができておらず、4 月のハーフマラソンの段階では「多分出場できないと思います」と言っていた。そこからの回復が早く今回の出場となった。多くは望めないとしても、次期主将として競技に参加する意味は大きいはずだ。競技は 12 時から第 2 コーナーのピットで行われた。高畑は円盤が上へ上へ上がってしまい距離が出ない。それでも自己記録に近い 36m65 を投げた。上野と一緒にもう少し頑張れば年内に 40m の大台に届きそうだ。その上野はどうしたことが記録が伸びない。優勝はランク 1 位 (47m 台) の大教大が 46m 台で優勝。2 位、3 位は 43m 台だったので、上野が実力を出していれば、と惜まれる。全日本インカレの B 標準は 46m50。あと 2m だがこの差は相当に大きい。しかし全日本インカレという学生競技者にとっては最大の目標に挑戦できる位置まで来たというのが値打ちだ。これだけの discus thrower は滅多に出ない。最後を飾ってほしいものだ。

## 2 部 400mH 予選 1 着 + 4 山口は自己新で通過なるも、花崎、清水は予選落ち

山口 (4 年、53 秒 86、9 位) が 1 組、花崎 (3 年、54 秒 97) が 2 組、清水 (M2、54 秒 28) が 4 組に出場。1 組の山口は 7 レーンの山口はアウトコースの利を生かして最初から行く。最終コーナーを回って大阪教育大と 2 人が先行。そのまま押し切って 53 秒 82 の 2 位、自己新かと思っていたら、先にも紹介したが、直前の記録会で 53 秒 00 の快記録を出していたらしい。これなら表彰台も狙える。もともと 110mH の選手なのでハードリングはとても滑らかだった。タイムの向上は 400m の走力が伸びたということか。少なくとも 400m49 秒台に入ってきたということ。マイルにも朗報だ。2 組の花崎は 200m までは善戦。しかし 300m で前 4 人と距離が空く。スタミナが切れてきたのか 55 秒 42 で 5 位。2 位は 54 秒 82 なので自己新ならチャンスは生まれていた。4 組の清水も M2、最後の関西インカレだ。前半は自重気味。200m からエンジンがかかり追い込んでいったが前 4 人に追いつかず 54 秒 82 で 5 位。この組はレベルが高く 4 位 (54 秒 57) までが通過。自己記録なら決勝だった。前半少し抑えすぎたかもしれない。惜しかった。ノリノリの山口君の決勝に期待しよう。うまくいけば表彰台も夢ではない。

## 女子走高跳決勝 日高 惜しくも 5 位

日高 (4 年、1m70、6 位) が出場。早いもので日高も

もう4年。高校時代から有名だった日高、武村が入部してきたのがつい昨日のように思える。日高は身長が1m74で手足が長い。まさに走高跳の選手だ。しかし他の選手も同じ。トップは1m76だが1m70を越す選手が8人と激戦。表彰台まで行けるか入賞だけで終わるか紙一重の勝負となるだろう。

全体として記録が伸びない中、日高も少し切れを欠くようだ。体が上がっていかない。結果は自己記録を5cm下回る1m65で5位と不本意な結果。優勝が1m72。2~4位が1m69と全体的に低調だったので本当に惜しかった。しかしこの4年間、神大女子を支え続けた日高、武村の名前は語り継がれる。

### 女子4×400mリレー予選 最下位で予選落ち

この種目もよくぞ組めた、というところ。エントリー記録もない中での出場。宮崎(3年、400mH)、佐長(3年)、荻野(3年)、野口(4年)のメンバー。400mで60秒を誰も切っていないので予選通過はないが、少しでも実戦を経験して、近国体での開花を目指すための刺激になれば、というところか？

関西女子はこの種目も強く、3分37秒の立命大は別格として、4分を切らないと決勝へは行けない。

神大は4分10秒あたりを目標にするのだろうか？やはり実力不足は否めず、結果は7チーム中最下位の4分14秒25。6位の大体大とも4秒、30mの差がついた。バトンパスを入れての一人平均64秒ではやはり厳しい。まずは個々の選手が60秒を目指して切磋することだろう。でも良く出場した。

### 2部4×400mリレー予選 3組2着+2

#### 見事予選通過

今城(2年)、高柳(4年)、山口(4年)、伊藤(4年)が出場。50秒を切っているのは48秒台の高柳だけ。49秒台の南部は800mとの兼ね合いでメンバーに入らなかった。今城は良く踏ん張って4、5位あたり。エースの高柳が一気に先頭グループに躍り出る。400mH予選を走って3時間の山口も良く走って先頭グループを死守。最後の伊藤は各校のアンカーと渡り合うも3位でゴール。記録は3分17秒32と最近ではかなりの好記録。最終日の決勝では400mHの決勝があるので山口の回復がカギか？しかしこの予選は良く走ったと思う。市大はさすがに強く2連覇は間違いないように思える。

### 2部5000m決勝 平井自己新で8位入賞

佐久間(4年、15分9秒81)、平井(4年、15分15秒53)の二人が出場。A標準が15分10秒だが、B標準が16分15秒と緩く42人がエントリー。そのため持ちタイムで2グループに分けたタイムレースとなった。佐久間、平井は上位グループの2組。上位は14分22秒のびわこ学院、以下奈良学院、大経大、大阪学院大、と続き10位が14分59秒と二人とも入賞には厳しい状況。しかしハーフと同じく夕方とはいえ気温は高い。番狂わせも十分ある。

レース序盤、平井は例のごとく集団の後ろから行く。しかし佐久間は1周目から最後日でしかも差がドンドン開いていく。何か理由があるはず、と思って見ていた。平井はハーフと同じくマイペースで追い上げ、前からこぼれてきた選手を各周2、3人拾っていく。3000mを過ぎ平井は入賞を狙える10位集団まで上がってきた。しかもその集団で一番フォームが崩れていないのは平井で集団をリードしている。最後の1周になり8番手。課題だった最後の1周の切り替えも、流しを重点的に走り疾走スピードを上げる努力をしたせいも良く伸びている。1年前のフォームの切り替えができていなかったレースとは大違い。これなら競った展開のレースでも遅れは取らないだろう。結果、15分5秒29の自己新で堂々8位に入った。この暑さの中で見事なレースだった。大いに称えたい。佐久間は昨秋調子を上げA標準を切ったが、その後医学部の関係で渡米したりと練習が積めなかったらしい。

その中で端正に走り、15分58秒27だったが全体でも42人中24番目となった。優勝は最後猛スパートで逃げ切った大経大の内山君が14分42秒で制した。竹沢新監督も喜んでおられるだろう。

### 女子5000m決勝

#### 仲野が13位なるも見事な自己新

仲野由佳梨(3年、16分55秒55)が出場。高校時代3000mを9分40秒台の記録で走った仲野も昨秋からようやく高校時代の調子を取り戻し上り調子というのは前に紹介した。自己記録の16分台というのは男子でも走れない選手がいる。ん？いつの間にここまで戻った？という感じだった。しかし上には上がっている。女子は1部、2部がないので立命、京産などという全国クラスの強豪校の選手とも一緒に走る。ラントップは立命の佐藤の15分30秒、1500m、1万

mを勝った京産の橋本との一騎打ちの予想を立てていた。その中、仲野がどういうレースをするか？レースは予想通り立命、京産、大阪学院等の強豪校の選手が15人ほどの集団をつくって先行。仲野は第2集団の先頭グループだがあっという間に差は50m。くっきりと色分けされたレースとなった。トップは1万mでずっと追走して最後の1000mでスピードを生かして佐藤を突き放した京産の橋本が先頭を引っ張る。それを立命の佐藤がぴったりと追走。この辺りトップ選手間の心理戦が垣間見えて面白い。多分橋本は1万mでの勝ち方を潔しとはしていないのであろう。仲野はというと、2000mを過ぎてこぼれてくる選手を拾い順位を上げ始めた。仲野にしてはいいペースで走っているようだ。フォームもしっかりしており表情もきりりと前を追う眼をしている。3000mを過ぎ、立命の佐藤が突如ロングスパートを仕掛け、橋本以下を突き放す作戦に出た。このスパートはなかなか女子のレースでは見られないくらい強烈なもので、あっという間に差が30m以上に広がる。最後までもつれると橋本のスピードが生きる。結局佐藤が橋本に10秒差をつけ快勝。とても印象的なレースだった。しかしタイムは16分0秒と自己記録より30秒も遅い。序盤が遅すぎた。仲野は13位まで順位を上げたが強豪校の選手に混じって堂々のレースぶりだった。タイムもこの暑さの中、16分51秒17の自己新。全体としてサバイバルレースになっている中、この記録は素晴らしい。なんとか在学中に16分30秒を切ってほしい。よくやった。暑さへの耐性も示したので近国体あたりでは優勝も狙えるのでは？と感じた。9月の駅伝では何とかチーム編成をしてもらって出場してほしい。仲野の快走を見たいものだ。

## (トラック&フィールド4日目)

5月19日(日) 鴻ノ池競技場

### 女子10000mW決勝 福田 粘って8位入賞

福田(4年、51分25秒55、7位)が出場。福田は昨年度も入賞を果たしており、神大女子に競歩のエリアを切り拓いたパイオニアである。昨年9月の女子駅伝には選手としても出場した。前日とは打って変わって日射しがきつく、9時半時点で20度を軽く超えており

サバイバルレースを予感させた。まずトップ集団が9人で飛び出し、福田は2番手の10番で上位からこぼれてくる選手を拾っていく作戦。このコンディションでは妥当な作戦だ。本人もレース後、決めた通りに歩きました、と言っていた。ギリギリ2人を拾ったが、それ以上の脱落者はなく、入賞ギリギリの8位に終わった。今まで競歩にあまり興味持っていなかったが福田のお陰でじっくり観戦してみると、これはこれで奥の深い競技だと感じた次第。食わず嫌いはよろしくないが、見るからにシンドソウな競技であることには違いない。

### 2部走高跳決勝 大学院の新星 後藤 見事2位

神戸に少しトウは立っているが(失礼!)期待の新星が入ってきた。新潟大から発達の大学院へ進んだ後藤である。エントリー記録は2m05(ランク4位)だがベストは2m11と聞いた。場合によっては優勝も狙える。もう一人は小西(4年、1m93)。強力な走高跳軍の結成だ。結果は後藤が2m05で2位。小西は惜しくも9位で得点ならず。優勝は2m10なので少し差があった、大健闘と言っては後藤に失礼かも知れないが貴重な7点ゲットだ。

### 2部やり投 ハンドボールから転向の2年梶浦、自己新なるも惜しくも9位で入賞ならず

やり投げにも面白い選手が出てきた。なんとハンドボール部出身の梶浦(2年、56m67)である。もともと地肩が強いのだろうが、かなりの技術を要するやり投げを、直ぐ未成年者がこなせるわけもないはずだが？昨年秋の新人戦での最初の記録がこの56mらしい。話によると普通に流しとかダッシュとかするとあまり洗練されてはいない走りっぷりらしいが、いったん槍を持つと見違える助走をするとかの不思議流だ。ランク的には10位が58m台なので入賞は厳しいと見られるが、槍は投擲種目の中では一番ハプニングが起きやすい種目でもあるので、一発引っかかることを期待して見ていた。

梶浦は最初から56m台を投げ好調。2投目を終わり僅差の9位。着地点の印がバックスタンドから良く見えるように並べてある。8位のマークと1mくらいか？3投目は大きく伸びたように見えた。

一緒に見ていた部員たちの間でも「行ったんじゃないか？」とかの声が上がる。係員が着地点を特定してマークを動かす。果たして？惜しい！あと20cmくらい

か。しかし 57m97 と 1m30 cm も自己記録を更新。大健闘だと言える。まだまだ伸びしろは大きいはずだ。これからの梶浦君のヤリに注目だ。

## 2部 10000mW決勝 荒堀3位、若江5位

女子競歩に続いての男子競歩である。しかし2部の競歩はエントリー数が規定の8名に満たず(7人)規定により得点種目と認められず入賞が期待できる2人をエントリーした神大としてはがっかりの結果である。2年の若江と1年の荒堀はランクが7位と6位。結果は荒堀が48分48秒97で3位、若江が51分16秒42で5位と大健闘。二人の点は10点相当。タラればだが、この10点は本当に惜しかった。

## 2部 400mH決勝

### 山口健闘の6位、110mHと合わせ2種目入賞

昨日の予選でいい走りを見せた山口が8レーンに登場。予選では1台目をひっかけたが、今回はスムーズにクリヤ。しかし予選と違い内側から抜かれる。250m付近では市大を先頭に5人が先行するも、そこから少しおかれている。最後は市大が52秒02という好タイムで51秒台の記録をもつ大阪学院大を抑えて完勝。2位とは0秒77の大差。2~5位は一団で山口は5位から0秒5おかれて6位に終わった。まだマイルはあるが、山口の今大会での走りはひときわ目を引いた。こういう最後を飾るのは理想だがそうはならないものだ。何か「持っている」のだろうか？

## 女子走幅跳決勝 武村 何とか7位入賞

武村(4年、5m71、8位)が先週の三段跳に続いての出場。三段の13mと同じく幅は6m越えが目標。エントリー記録ではギリギリ8位入賞というところだが・・・この日も追い風が強かったが三段の時ほどではなく2m前後。記録を狙うには絶好だと思われた。結果は5m68と自己記録に3cmと迫り7位入賞。これはこれで立派。この追風でも各選手が皆記録を伸ばしているわけではない中十分な戦いをしたのだが、本人としては高いところに目標を置いているのでこんなところで満足はしていないだろう。9月の日本インカレでは是非三段跳び13m越えを達成してほしいものだ。

## 2部 3000mSC決勝 藤田、6位にとどまる

藤田(M2、9分0秒75、1部を入れてもランク1位)が出場。このエントリー記録は特に2部では2位以下に8秒の差があり、順当なら絶対本命の優勝候補。素晴らしい記録だ。しかし昨年来大学院の授業等の影響

で練習が積めず、1500mでもまさかの予選落ち。不安を抱えてのレースとなった。試合巧者の藤田が経験でどこまで食い下がるか、いずれにせよ苦戦は免れない。17名の一発決勝である。

号砲が鳴った。3人エントリーしている大経大トリオを中心に最初から早いペースで入る。藤田はというと何と最後尾から行く。藤田のパターンでもこれは初めて。レース中盤で様子を見て上がっていくというのが本来のパターン。しかしこれは明らかにオカシイ。自信がないので最初から行ききれない。

レース中盤でやっと10位まで上がってきた。残り2周、まだ7位だ。残り一周、ようやく甲南を振り切ったの6位。しかしタイムは自己記録より30秒遅い9分30秒42。優勝は最後の3周ですると抜け出し残り1周で力強いスパートで2位に5秒差をつけ9分17秒で快勝した神戸学院大。自己記録は13秒縮めた。藤田は現在の体調からベストの選択をして戦ったのだろうが、いい時の藤田を何度も見てきており、憧れの9分切りと学内記録更新を周囲も期待しており、何より去年は意欲を見せていただけに本人の無念は良くわかる。しかし藤田がここ4年で果たした役割は、2年前の駅伝で9位入賞の原動力となった1区での快走を始め非常に大きいものがある。是非今秋の駅伝に出場して最後を飾ってほしいものだ。

## 2部 4×400mリレー決勝

### 神大大きくタイムを落とし最下位

いよいよ大会の最後を飾る4×400mリレーである。去年は3分17秒99とそこそこのタイムなるも予選落。決勝進出が最低限の今年目標だったが、今年も3分17秒32で何とか決勝進出。去年は市大が最後に大逆転し市大OBの歓喜をすぐ横で見ていたが、やはりある意味大会の華のこのリレー決勝に残っているかどうかは大きいものがある。懸念は昨日400mH予選とマイル予選の2本を走り、本日も入賞した400mHを3時間前に走っている山口。彼は400m49秒台の力があり又通常なら十分回復が見込めるはずだが？回復度合いが気になる。他にも49秒台の800mの南部がいるが1時間半前に決勝を走ったばかり。選手交代するなら200mが強い近藤(M1)だが？

結局選手間で良く話し合っただけで予選と同じメンバーで行こうと決めたい。今城(2)、高柳(4)、山口(4)、伊藤(4)である。このレースは市大が



絶対の大本命。市大の亀井会長がレース前に選手と一緒に応援します、といそいそとチームのところへ行かれた。神大は予選通過タイムから見ると5位なのだが？1走が無難に滑り出せば2走の高柳が中段まで上げてレースになるはずと期待した。スタートした。さすがに決勝は各校速い。7レーンの今城はインレーンの強豪校に次々とかわされていく。市大はなんと47秒台が3人、もう一人も48秒台らしい。神大とは一人平均2秒違う。果たして最下位で5m差をつけられて高柳へ。今城はラスト100mでは体が浮き頭がぶれて前へ行かない。予選はもう少しスムーズに走っていたのだが？さすがに高柳は一人抜き3m差をつけて7位で山口へ。山口は最初の100mこそスツと出たが中盤全く伸びない。3m差をつけられ最下位へ転落。この間市大は2走で逆転し差をつけてアンカーのエース小林君に渡る。市大の安藤副会長が「あいつは走りながら下を度々向く癖があって忙しいのですわ」とコメントされていたが、それでも100、200、400、400mリレーでいずれも2位、200mに至っては2位だが僅差でしかも21秒09の大会新というスーパーマンぶり。彼が最後2位に2秒以上の差をつけ、3分12秒台で余裕の優勝。2位はなんと和歌山大、途中まで市大に食い下がったのは立派。3位の大阪教育大は強豪だが、4位に兵庫県立大が入ったのも特筆もの。以下5位京都教育大、6位甲南大、7位大阪学院大ときて神大は7位と0秒56差の3分21秒86で最下位に終わった。予選から4秒以上タイムを落としている。予選からタイムを上げるチームが多い中、4秒もタイムを落とすのはいただけない。予選と比べて1走と3走が走れていなかった印象。5位の京教大が3分16秒21なのでこれには届かないとしても、6位の甲南大が3分18秒32だったので予選の力を出せば余裕で勝っていた。やはり決勝はレベルが違うので、どうしても周囲に影響されて自分の走りができない場合も多いようだが「それにしても」である。対校戦で点の取り合いをしているのに最後でこういうレースをしていては話にならない。良く反省・原因分析して今後に生かしてほしい。

## 総括

2019年度の関西インカレも終了した。神大の結果は男子が42校中52点の6位、女子も42校中12点の

16位となった。2部はいつ42校にも増えたのだろうか？男子はエントリー記録からの戦前予想が8位だったことに比べると6位は善戦だし、エントリー数不足で得点競技とはならなかった競歩の10点を入れると4位。良くやったと言えるのではないか。女子も少人数ではあるが、武村、日高の跳躍競技を中心に頑張った。特に400mリレー、1600mリレーに出場できたのは大きく今後につながる。長距離の仲野が高校時代の記録を超え始めたし、100mハードルの和三、棒高跳びの臼井等、今後の女子を支える人材も姿を見せ始めた。男子は走高跳2位の後藤、走幅跳優勝の高松、砲丸3位の上野、ハードルの山口、高岡などが輝きを見せていた。また400mリレーが41秒1台まで上がって来たのも嬉しい。しかし1部昇格を唱えるには、去年も言ったが短距離を中心とした質量がまだまだの不足。今回昇格した天理大、大阪教育大などの選手層の厚みは比較にならない。ひとつの指標として、関西インカレに何人の選手が参加できたのか、がある。部員数が100名近くにはなっており、そこから何人が標準記録を切って本戦に出場できるかだ。出場選手が多い順に並べると(登録ベース)、天理大47名、神大36名、摂南大35名、大阪教育大34名、甲南大29名と続く。トラック優勝で気を吐いた大阪市立大はわずか18名で総合3位である。(正に少数精鋭とは市大のこと)

神大は参加人数が2番手と大健闘、国立大のスポーツのあり方の一端は示せているのではないか。我々は1部昇格でないと寂しい思いがするが、後輩たちが地道に努力しているのはこの数字を見ても良くわかる。母数は十分。その中で質量とも充実して一部昇格に挑める日がきっと来る。地道にその日を待ちたいものだ。

最後になるが、関西インカレの観戦記を書き始めて5年、陸上競技全般の知識は乏しかったが、5年間もその気で見ていると相当目が肥えてきて各競技の持ち味・面白さ・ツボみみたいなものがわかってきた。関西インカレ観戦記執筆は実に楽しい作業ではある。神大以外の読者もおられ、楽しみにしていると言ってくれるOBも多い。しかし毎年連続4日間観戦せねばならずその負担は半端ではない。残念ではあるが本年度で私が書く観戦記は最後としたい。来年からは現役諸君が工夫して引き継いでほしいと思っている。

長い間ご愛読いただきありがとうございます。